

二〇二五年一月二二日

電線に大集合す秋燕
且散りて水面に錦織る紅葉
総玻璃のビル一面に小春空
古書簡の整理の遅々と冬座敷
神馬の背撫でて且つ散る紅葉かな

二〇二五年一月二二日

夕日背に銀杏拾ふ影法師
散る色葉友禅流しめきし池
街路樹の枯葉高舞ふ摩天楼

二〇二五年一月二〇日

陋屋を明るうしたる石路の花
温かき日を背に享けて畑仕事
喪の日々はホ旬が慰め落葉踏む

二〇二五年一月一九日

葬送の日々を香りて金木犀
雪霽に仄と点るは無人駅
小春雲ひつかかりたる城の鯨

二〇二五年一月一八日

咲き続く葬に飾りし冬薔薇
力石擦つてゆく小灰蝶
冬日和玉砂利踏みて夢殿へ
風一陣色葉吹雪の西の丸
枯山水庭へ且つ散る紅葉かな

二〇二五年一月一七日

眼のつばを押してまどろむ縁小春
黄落のトンネル櫓並木ゆく
芋煮会同窓集ふ廃校舎

二〇二五年一月一六日

少年野球の甲高き声霧の朝
金色の日を翻し銀杏散る
カメラマンに笑顔ほめられ七五三

毎日句会みのる選・二〇二五年一月二四日

よし女	むべ	せいじ	あひる	こすもす	わたる	澄子	かかし
あひる	ほたる	やよい	ぼんこ	千鶴	せいじ	少年野球の甲高き声霧の朝	こすもす
あひる	ほたる	やよい	ぼんこ	千鶴	せいじ	金色の日を翻し銀杏散る	むべ
あひる	ほたる	やよい	ぼんこ	千鶴	せいじ	カメラマンに笑顔ほめられ七五三	むべ